

別紙標準様式（第6条関係）

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回枚方市青少年問題協議会	
開催日時	令和5年9月26日	開始時刻 10時00分 終了時刻 11時40分
開催場所	第3分館（旧市民会館）3階 第3会議室	
出席者	会長：飯田委員 委員：渡辺委員、池田委員、池野委員、奥田委員 栗村委員、寺島委員、野口委員、野澤委員 實田委員、山崎委員、山中委員	
欠席者	花房委員	
案 件 名	【案件】 （1）「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について （2）不登校対策について	
提出された資料等の 名称	資料1 枚方市子ども・若者育成計画【改定版】令和4年度進行管理報告書（案） 資料2 こども大綱について 資料3 不登校の現状といじめについて 参考資料1 枚方市におけるひきこもり等の子ども・若者支援について 令和4年度の活動報告 参考資料2 枚方市青少年問題協議会 委員名簿	
決 定 事 項	1. 「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について説明を受け、委員から出された意見を踏まえ、計画に基づき引き続き各施策の取り組みを進めることを確認した。 2. 不登校の現状といじめについて報告を受けた。	
会議の公開、非公開の 別 及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	1人	
所管部署（事務局）	枚方市役所 子ども未来部 子ども青少年政策課	

審 議 内 容	
飯田会長	<p>では、定刻となりましたので、ただいまより、「令和5年度第1回枚方市青少年問題協議会」を開催いたします。</p> <p>私、会長をさせていただきます大阪国際大学の飯田と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>今回は今年度の第1回の協議会となりますので、委員の皆様の中では、前委員から交代されて初めて御出席いただいている委員の方もいらっしゃると思います。後ほど事務局から本日御出席の委員の方を御紹介いただいた上で、審議へと入っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議題ですけれども、まず「案件」といたしまして、「枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況」について、先生方から御意見を承りたいと考えています。そしてその後、「報告」といたしまして、昨年度の議論の中でもいろいろと話題に上がりました「不登校対策」について、事務局から説明をいただきます。</p> <p>また、本日は11時半を目途に終了したいと考えております。委員の皆様にはスムーズな進行と活発な御発言に御協力をぜひお願いいたします。</p> <p>では、初めに事務局から本協議会の委員の御紹介、また、事務局の職員の方についても併せて御紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>事務局を担当しております、子ども青少年政策課課長の小篠でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、初めに子ども未来部長の乾口より一言御挨拶を申し上げます。</p>
乾口子ども未来部長	<p>皆さん、こんにちは。子ども未来部長の乾口と申します。本日はお忙しいところ、令和5年度第1回青少年問題協議会に御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>また、平素から本市の青少年健在育成に御尽力いただいておりますことを深く敬意を表しますと共に、心より感謝申し上げます。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>さて、本市では、本協議会において御審議いただきました令和4年度までを計画年度とする「枚方市子ども・若者育成計画【改定版】」に基づき、困難を有する子ども、また、若者の支援など様々な取組を推進してきたところでございます。ひきこもり等の長期化、また、本人や家族の高齢化など、子ども・若者を取り巻く環境が深刻化しているといった状況の中、枚方市子ども・若者支援地域協議会のネットワークを生かしながら、今後も困難を有する子ども・若者とその家族に情報を届け、相談支援につながるよう仕組みを強化し、計画に基づく取組を推進してまいります。</p> <p>本日は、委員の皆様には本計画の進捗状況等について御審議いただければと考えております。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から様々な視点で御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。</p> <p>続きまして、本日の協議会が、先ほどございましたように今年度初めての開催となっております。また、新たに就任された委員の方もいらっしゃいますので、改めまして会長も含めまして、委員の皆様を順に御紹介させていただきます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(委員紹介)</p> <p>次に、事務局を紹介させていただきます。</p> <p>(事務局職員紹介)</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございました。では皆様、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、続きまして、事務局から委員の出席状況及び資料の確認をお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>本日の委員の皆様の出席状況ですが、出席委員は12名で、「枚方市青少年問題協議会条例」第5条第2項の規定に基づき、本協議会が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者は1名でございます。</p> <p>本日の会議につきましては、会議録の作成に当たり記載内容</p>

<p>飯田会長</p>	<p>の正確性を期すため、補助的に会議内容を録音させていただいておりますので、御了承願います。</p> <p>続きまして、お手元の資料を確認させていただきます。</p> <p>(配布資料確認)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、本日の会議は 11 時半までを予定しておりますので、スムーズな進行に御協力のほどよろしくお願いたします。</p> <p>それでは早速、案件に入っていきます。</p> <p>まず、案件 1 「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について説明をお願いいたします。</p> <p><説明> 案件 1</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から案件（1）の途中までではございますが説明がありました。ここまでの説明について、御質問や御確認いただきたいこと、御意見などがございましたら、何かお話しいただければと思います。</p> <p>いかがでしょうか。特に御確認いただくことなどございませんでしょうか。</p> <p>では、また続いて説明もありますので、気づかれたことがございましたらその後に御質問いただくことも可能ですので、よろしくお願いたします。</p> <p>では、引き続き案件（1）について説明をお願いいたします。</p> <p><説明> 案件 1</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から案件（1）について説明していただきました。先ほどの前半の部分も含めまして、御質問、御意見などがございましたら、それぞれのお立場から御意見いただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p> <p>御質問などでも結構です。お願いたします。</p>

池田委員	<p>居場所支援事業の「ひらぼ」の拡充についてですが、14 ページです。これは開催となっていますけれど、常時やっている事業なのか、もしくは青少年センターで定期的というか、あらかじめ日を設定して開催されるものかをお教えいただきたいと思います。</p> <p>もう一点、19 ページの「市内若者雇用推進事業」ですが、委託事業だと思いますけれど、新たな拡充として職業講話の実施に向けた仕組の検討という記載がありますが、何か具体的なイメージがあるようでしたら教えていただければと思います。よろしくをお願いします。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p>
(事務局)	<p>まず居場所支援「ひらぼ」についてですが、資料1の15 ページに少し詳しく資料を載せさせていただいています。居場所はいろいろな形がありますが、子ども相談課で行っている居場所支援「ひらぼ」は、クローズドな居場所になっています。相談に来てくださっている方の次のステップとしての居場所になっていますので、基本的には週1回、水曜日の午後2時から午後4時の時間を使っていて、プラスアルファで何日か行っていますので月に7、8回、時間と場所を設定した形になっています。</p> <p>内容も一応こちらでプログラムは作っていますが、そこに参加してもいいし、しなくてもいいという形になっていて、相談に来てくださっている若者の皆さんが自分のペースで選んで参加していただけるような形の居場所づくりになっています。</p>
(事務局)	<p>もう一つの市内企業若者雇用推進事業でございますけれども、こちらにつきましては市内の事業者の皆様に御協力をいただきながらということになります。昨年少しさせていただいたものでは、バスの運転手さんは子どもが関心を持ちやすい職業の一つでもあります。例えば、バックヤードの見学や、他にも表には見えていないいろいろなこととお話しいただいたりして、子どもたちに興味を持っていただくという取り組みをしました。今後、どのような展開をして継続させていくかを検討していきたいということで、拡充推進とさせていただいてございます。</p>

飯田会長	<p>ありがとうございます。御専門のところでもあると思いますので、何か御意見もあれば言っていただいても結構ですが、よろしかったでしょうか。</p>
池田委員	<p>あとの職場見学のところですね、仕組としては非常に意味のあるといいますか、早い段階からキャリア教育ということで我々も推奨しています。全体としては、子どもに対する支援としては当然意義があると思いますが、ひきこもりとか課題を抱える子どもに対して特化したものではないかなという感じを持ちまして、一般的な若年者に対する就労支援は、全く関係がないことはないでしょうが、課題別のところにはつながらないのかなという感じはします。総枠では子どもの支援ということでは私も賛成ですし、非常にいい取組だと思いますが、その点だけ少し気にはなりました。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他の先生方も思われることがございましたら、おっしゃっていただければと思います。</p> <p>もしよろしければ、順番にちょっとお話しいただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>池野委員、何か御意見等ございましたらお願いいたします。</p>
池野委員	<p>枚方警察署生活安全課長の池野です。</p> <p>青少年問題協議会については、警察の少年係が主となってきますけれど、ちょっと今回の議題の中で直接警察としてというところはなかなか難しいのかなという思いがあります。ただ、うちの管内において、少年の犯罪も減ってはきていますけれど、いろいろな子どもさんが来るというところで、ひょっとしたらこういう不登校や、心の部分があって非行に走ってくることもあるので、この辺の会議の結果については少年係にもちゃんとフィードバックをして、何か関わるができるのであればそこは協力させていただこうと思っております。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>直接は御関係がないと思われることがもしありましても、御意見・御感想などもいただければと思います。</p>

<p>奥田委員</p>	<p>では奥田委員、お願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>民生委員・児童委員は対象者が0歳から100歳までというのを目標にしてみんな頑張っていますけれども、なかなか踏み込んでいけないところがあります。不登校の子どもさんはいらっしゃいますかと聞いてもいけないし、そのあたりがもうちょっとかみ合っていったら、もっとみんな、民生委員さんが頑張ってくれているからいけるかなということが一点あります。</p> <p>それから、さきほどの「ひらぼ」について一点聞きたいのですが、14ページの施策目標3の下から2つ目のところです。「ひらぼ」のボランティアであるサポートフレンドについて養成講座を開催とありますが、もう実施されていますか。それはどうやってアナウンスされていますか。私は初めて知って、こういうのがあるのだと思いましたので。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>居場所支援「ひらぼ」のお手伝いをさせていただいております市民ボランティアのサポートフレンドさんですけれども、3、4年に1回、募集をしまして養成講座を開催させていただいています。コロナもあったので今回、少し間が開いていますけれども、前は令和元年度に開催しています。これまでに3回くらい開催させていただいてまして、その都度、一旦登録からは外れる方もいらっしゃいますし、新規に登録して下さる方もおられて、継続してお手伝いさせていただいています。登録して下さっている中から実際に居場所支援「ひらぼ」に参加させていただいて、直接若者の皆さんと関わっていただいている形です。</p> <p>今年度は養成講座を企画できたらと検討していますが、いつもは「広報ひらかた」やホームページ等で周知させていただいているのと、チラシを各施設等に配らせていただいて、ありがたいことにとっても関心を持っていただきまして、定員が30人ぐらいですが毎回いっぱいになるぐらい興味を持って、何かできればと思ったださっている市民の方がいらっしゃるのだと感じているところです。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

<p>栗村委員</p>	<p>では栗村委員、お願いいたします。</p> <p>個人的な質問になるかとは思いますが、私は小学生と中学生の子どもがおりまして、いろいろな保護者の方としゃべる機会があります。心の教室については、実際に相談したいけれどもやっぱり教頭先生に申し込んだりしないといけないのでなかなかハードルが高いという声も聞きます。ですので、各学校によるかとは思いますが、心の教室に相談したい方が申し込みやすいようにもうちょっとハードルを下げただければ、将来ひきこもりとかそういった方向に進む御家庭が少なくなるのではないかと考えています。そのあたりは各学校にお任せされているかと思いますが、申し込みをするハードルを下げただければと思います。</p> <p>あともうひとつ、スクールソーシャルワーカーの事業として、中学校に1名の配置を目指しているとおっしゃって書いてありますが、いつ頃全中学校に配置できる予定があるのかをお伺いしたいです。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>心の教室相談員ですが、おっしゃるとおり学校によって申し込みの手順はいろいろとあるかなと思います。今、このように教頭先生に直接お話しするのはちょっとハードルが高いというのをお聞きしましたので、そういう思いを持っておられる方がいらっしゃることはこちらとしても学校に周知していきたいと思っています。御意見ありがとうございます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>スクールソーシャルワーカーの配置につきましては、今現在、中学校、小学校もありますけど、配置できている人数が7名です。目標としましては令和7年度に全中学校へ配置を目指しているところです。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>大事な事業だと思います。御質問ありがとうございました。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>少し捕捉しますが、スクールソーシャルワーカーは、今は7名配置していますが、本来であれば今年度ももう少し増やしていき、去年が6名、今年が13名、来年度が19名と、段階的に増やしていきたいと思っておりますが、今、本当に全国的</p>

<p>飯田会長</p>	<p>にワーカーの需要が伸びているといますか、各自治体も募集をしているところでなかなか配置が難しい状況ではあります。不登校になったり、ひきこもりであったりする子どもさんは一人ひとりそこに至る背景が違いますので、そういうところをしっかりとアセスメントしていく意味でもワーカーの必要性は感じておりますので、できるだけ早く配置していきたいとは考えております。</p> <p>ありがとうございます。 では寺島委員、お願いします。</p>
<p>寺島委員</p>	<p>施策目標2の9ページのところですけれども、報告がありましたように、令和4年度については全体的な人数、相談件数が増えてきているとお聞きしましたが、これについては周知が徹底してきて増えたのか、それとも実際にひきこもりの方がたくさん増えてきている現状であるのか、分析というか、状況をお聞かせいただきたいのと、家族会の相談がずっと、前年度よりもたくさん増えてきていますので、ここら辺について周知活動がうまくいっているのか、またどういう形で増えたのかをお聞きしたいと思います。</p> <p>それと、ここの記載にありますように15歳から39歳までが対象となっていますけれども、この報告書にもありましたように40歳以上の方も相談があり、これから高年齢になってくる方についてのバックアップも含めて、何か考えていかなければならないかなという思いもしますので、そのあたりについてもお聞かせ願えればと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、9ページのグラフにあります相談件数ですが、延べ相談件数がこのグラフのとおり右肩上がりが増えてきています。令和2年度、令和3年度はコロナの影響を受け外出自粛等もありましたので、新規も減りましたし継続的に来ていただいている方も来られなくなったり、少し頻度を下げられたりということがありました。家族の会や居場所も実施しない月もありましたので、このような形で数が減っています。それを受けて令和4年度はその部分が復活してきたということが一つあると思います。</p>

飯田会長	<p>10 ページの真ん中の表ですが、新規相談の数としては令和2年度、令和3年度が、100件以上あったのが72、82と減り、令和4年度も微増で思ったほどには増えていません。令和4年度の延べ相談件数の増加は、新規につながっているというよりは今まで継続してつながってきた皆さんがもう一度つながり始めた、つながりが回復してきたということがこの数に表れていると感じています。ですので、新規につながる場所は引き続き課題として周知をいろいろな形でしていけたらと思っていますけれども、昨年度と今年度にかけてはもう一度つながった方に丁寧につながっていただけたいなと考えているところです。</p> <p>家族会の会についてですが、先ほどの居場所支援と一緒に、こちらの相談支援センターの相談に来てくださっている御家族を対象にさせていただいています。おとしはコロナで開催を自粛した月もありましたけれども、再開すると前年度よりもとてもたくさんのお家族が参加くださいました。その影響が令和4年度も続いていたのかなと思っています。ですので、一度つながりが切れてしまうと直接誰かとつながりたい御家族も孤立していけますので、それでもやっぱり誰かとつながりたいというニーズがとてもあるのだろうなということが分かった数字でした。</p> <p>40歳以上の方の支援についてですけれども、今現在も実際に40歳以上の方の御相談もあります。それから30代で御相談を受けて5年とか10年とかお付き合いしている方が40代になれるケースもありますが、そういったときには他機関との連携で次へおつなぎする動きをとっています。主には健康福祉総合相談課という市役所内の課で、様々な社会資源や福祉サービスを活用してその後の生活をどう整えていくかという御相談、そのような次の動きにおつなぎしていくという形で支援を継続しているところです。</p> <p>よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。</p> <p>皆様に今、御発言いただきたいのですが、資料2の説明も事務局からありますので、資料2の説明をいただいた後、資料1、資料2を含めてまた御発言いただければと思いますので、まず資料2の説明を事務局からお願いいたします。</p>
------	---

＜説明＞案件 2	
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の点も含めて、御質問・御意見などを続けて御発言いただきたいと思います。</p> <p>では野口委員、いかがでしょうか。</p>
野口委員	<p>先ほどの資料 1 で御説明いただいた中で、小学校・中学校で不登校児童・生徒数が増加していることとか、あとは不登校の要因が多様化しているというお話がありました。本校においても不登校生徒の問題は喫緊の課題と考えておりまして、いろいろな対応を現在も行っているところですが、その中で適応指導教室というものを活用して、なかなか教室に入れないお子様のスモールステップの場としていろいろなお子さんが今も勉強しているところです。市の方に御支援いただいて、以前に比べるとすごく手厚くなったかなという感想を持っていますけれども、一方でやはり不登校生徒を抱えている課題が本当に多様化してしまっていて、例えば、その場で勉強するお子さんについても、基本的には教室で勉強するけれど、一時的に場所を移すことで心の安定を図るお子さんもいれば、単純に学校へ行くハードルが高くて活用している生徒もいます。このように目的とかいろいろなものが違う中で、一つの空間にいる難しさもすごく感じています。なかなか教室の配置とか人員の配置とか、そういうところが非常に難しいという感想を学校では感じています。</p> <p>あとは、職業講話のお話も先ほど出していただきましたけれども、今イメージされているのが、例えば対象が小学校の何年生なのか、中学校の何年生なのか、そのあたりの対象のイメージによって方策が変わってくると思いますので、そのあたりも具体的に御説明いただけたらありがたいと思っております。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p> <p>就労の関係の小・中学生に向けた取組でございますけれども、今後の展開について、今はまだ模索しているところがございますので、どういった世代といたしますか、小学生なら小学生、中学生なら中学生にという形で、どういった形で事業者さんと連携してやっていけるのかは、今後も引き続きよりよいも</p>

<p>飯田会長</p>	<p>のになるよう検討していきたいと考えているところです。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>では続けて野澤委員、お願いいたします。</p>
<p>野澤委員</p>	<p>野澤です。調査された中で内閣府の調査を基本に「自室から出るか」、「家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」とかいくつかの項目がありますけれども、ひきこもりは非常に難しい問題で奥も深く、それを地道に継続的にやっておられるのは非常に大変だと思っています。それをまた続けていかねばならないということで、将来に向かって大変かと思えますけれども、この内閣府の調査に基づいて枚方市もされていると思えますけれども、私の経験からこのひきこもりの前段階として、ほとんどの子どもたちが不登校を経験していることが考えられます。また、不登校の原因としていじめがあることも考えられて、この関係性は非常に強いものがあると考えられるので、ひきこもりの前段階として過去に小・中学校で不登校の経験があったかどうか、いじめがあったかどうかを加えて調査をされるお考えはないでしょうか。そのような調査があったらいいのではないかと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今、いただきました御質問ですけれども、お手元にご用意しております枚方市の子ども・若者育成計画（第2期）、これは昨年度皆さんに御審議いただき作っていただきました計画ですが、この第2期計画の11ページを御覧ください。</p> <p>こちら、昨年、この計画を作るに当たって、ひきこもり・不登校などに関するアンケート調査を実施いたしまして、グラフの上2つです。子どもさんがひきこもり始めた年齢は何歳ぐらいですかと、そのうち不登校の状態になった時期はいつですかということで書いてあるグラフがあると思えますけど、これで行きますと57人の対象者がおられて、そのうち46人が不登校の経験があると出ています。割合でいきますと約8割となっております、昨年のこの調査からは約8割の方のひきこもりの背景にもともと不登校があったことが分かっております。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>補足ですが、同じ計画の17ページを御覧いただけますでしょうか。</p>

	<p>子ども・若者相談支援センターを利用しておられる若者の皆さんに昨年度、アンケート調査を行い、40部、回答をいただきました。そのうちひきこもりの経験があると答えてくださった方が32人おられて、その御本人さんが思われるひきこもりの原因やきっかけが円グラフの横の棒グラフになりますが、2番目に多いのがやはり不登校と答えてくださっています。いじめも9人答えてくださっていますが、今、委員が言ってくださったように、やはりこういった調査からもひきこもりの前段階として不登校やそれにつながるいじめの体験は大きく存在しているだろうなというのを踏まえながら、今後の支援に取り組んでいけたらと思っています。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p>
野澤委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が申し上げたかったのは、不登校が減少するのではなくてどんどん増えていっているという現実があります。ということは、将来ひきこもりも増加することは十分考えられるので、今の教育環境は個人ではどうにもできないところもありますけれども、子どもたちの状態は熱を40度ぐらい出してもだえているような、ひっ迫しているような状況だということを私たち大人が捉えていかないと、この先行き詰まるのではないかという危惧を持っておりましたので発言させていただきました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
飯田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では寶田委員、お願いいたします。</p>
寶田委員	<p>失礼いたします。</p> <p>まず率直な感想といたしまして、この大きなテーマにつきまして本当に市を挙げて、そして関係者の皆様とともに多角的・多面的に御対応いただいていると感じております。</p> <p>そうした中で、特にひきこもりとか若年無業者、不登校という問題には、古い話ですけど昭和61年ぐらいから私も高校教員として直面してきましたが、やはり同じ状況が続いているということに加え、その背景が多様化しておりなかなか思いどおりにいかないと、教員も悩んでいる状況の中で、こうやって</p>

市を挙げて様々な関係機関と協力しながら取り組んでいただいているのは本当に心強く思っております。

まず、資料1の2ページ、本計画の対象というところで、当人だけではなくその家族も対象にしているということ。これは当たり前だと言われればそうなのですが、非常に重要な要素であると思っております。家族の理解、家族の困り感、ここをしっかりとキャッチしていかねばならないところだと思います。

加えて、キーワードだけで恐縮ですけれども、私自身、校長という立場から学校運営上も大事だと思っているのが、14ページの施策目標3の「居場所づくり」というポイントです。

「居場所」と「社会参加」、これらも当たり前のことかもしれませんがなかなか難しいテーマです。社会が急速に変化していく中で、居場所とか社会参加も様変わりしている部分があり、難しい局面も生まれている中で、本当に普遍的で重要なキーワードだと思っております。そうした中で、「ひらぼ」とか、私は存じ上げなかったですけど「夜ひらぼ」というものもあって、非常に幅広く対応していただいていると感じております。

また、高等学校という立場で、これもありがたいし大事だと思うのは、21ページになりますが、不登校やニート等の問題対応にしましても、進路指導におきましても、保、幼、小、中、高、大、もちろん大学に加え専門学校とか短大も含め、そして社会につながっていくという連続性、相互の関連性の観点是非常に重要であると思っております。今回のテーマでもこの連続性・関連性を考慮した支援に努めておられ、これも重要な要素だと思っております。

その中で、私自身不勉強で申し訳ないのですが、22ページの中段にあります、「定時制や通信制高等学校等関係機関との連携体制構築に取り組みました」という、この連携体制構築をもう少し具体的に教えていただけたらと思っております。

加えて、その次のページ、23ページの2月16日のところに枚方高等学校と書いてあります。恐らく昨年度、本校の校長や教員が参加させていただいているかと思いますが、私も今後何らかの形で協力していきたいと思っておりますので、この「連携体制構築」について具体的に教えていただけたらありがたいです。よろしくお願いいたします。

<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>同じ 22 ページに、連携体制構築の前段として去年、内閣府の地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームという国の事業を活用して、特にこの計画を作った当初から、義務教育期までは不登校対策というか、この部分は市の範疇の中でやっていけますけれども、義務教育が終わった後の、高校になった後の支援がなかなか、どうしていくのか、そこがどうしても切れ目になってしまうのではないかという課題認識はしていました。やはりその連携の難しさは感じておりましたので、そこに着目して、去年の計画策定でも、この協議会で御意見もいただきましたので、そこをしっかりと話をしていきたいということで、国の事業を活用して、ご発言いただいた 2 月 16 日と、その前段に 12 月 16 日ということで 2 回、通信制の高校とか定時制の高校、それからフリースクールとか民間の支援の学校、2 回目には枚方高等学校の平岡前校長先生にも参加していただいて、どういう連携をしていけるのかを、課題出しも含めて話をさせていただきました。すぐにぱっと、こうしたら解決するというものではありませんので、課題として定時制とか全日制も含めたいろいろな学校が連携していかなければならないということを改めて認識させていただいたところです。これは継続して話をしていかなければならないことで、去年はコアな学校でしたが、今年は全体のネットワークの場でも取り上げさせていただき、多様な観点から引き続きその連携については話をさせていただきたいと考えております。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>では山崎委員、いかがでしょうか。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>交野警察の山崎と申します。</p> <p>関係機関との連携というところで、警察はいろいろな事案の対応等々をしていきますけれども、やはり見ていると、保健所であったり子ども相談課とは結構情報共有をしたり、時には相談に乗っていただいたり、いろいろと対応していただいているところでございます。本日、このような形で保健所や子ども相談課がその後ろでまたこのような若者の育成の支援をしているのを知りましたので、今後いろいろと保健所、子ども相談課初め、いろいろな機関と情報共有をしていく際は、このような切</p>

<p>飯田会長</p>	<p>り口での情報提供・共有もしていかなければいけないと感じました。</p> <p>ありがとうございます。 では山中委員、いかがでしょうか。</p>
<p>山中委員</p>	<p>失礼いたします、小学校長会の代表で来ました山中と申します。</p> <p>先ほどの御意見の中に、不登校からひきこもりにつながっているという話は小学校の教員として、認識しているところです。やはり不登校をなくすため、少なくするために学校としてどんなことができるか、ここにも書いてあるように、家族の方とどれだけ寄り添えるかが大きなポイントになるかと思えます。そのためにも、先ほどハードルが高いという心の教室の話もありましたが、心の教室という相談場所がありますということをしっかり周知して、それは文面だけではなくて日頃の子どもたち、それから家族の方に「こういうものがありますよ」「機会があれば来てくださいね」というもので進めていっています。また、幼稚園から小学校、小学校から中学校に上がるときに不登校になる場合がすごく多いと資料にもありましたように、そういうところではそれぞれの教育施設と連携して進めているところもあります。</p> <p>それと、本校も適応指導教室を今年作りましたけど、どうしても人材不足で人がいない、教室はあるけれど人がいない、できればそこに常駐する方がいらっしゃれば、子どもたちも心がしんどいときにいつでも行ける場所が提供できると思います。</p> <p>今、いろいろとお話をしましたけれども、我々もいろいろな所とつながりを持って対応していく、それから不登校等になりそうな子どもも、子どもだけでなく家族の方も、いろいろな所とつながりを持っていただくということで進めていっています。またよろしくお願いします。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私自身も公認心理師・臨床心理士としてスクールカウンセラーを18年ぐらいやってきておりますので、現場で、不登校という状態と、それが発展してひきこもりにつながってしまうということで、ちゃんとつながなきゃいけないとすごく感じて</p>

<p>(事務局)</p>	<p>おりました。昨年度の会議の中でもそのあたりがすごく意見として出ましたので、本日は報告事項ということで、案件2として「不登校対策について」、児童生徒支援課から報告をいただきたいと思っております。</p> <p>あと、副会長にまだ御意見をいただけていないのですが、副会長には不登校対策の報告をいただけてから全体を通して御意見をいただきたいと思っておりますので、御報告をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜説明＞案件2</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ではまず副会長から、全体を通して御意見・御質問などがありましたら伺いたいと思っております。その後、皆様にもう一度伺いたいと思っております。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>時間的にあまりないですけども、皆様方のお話をお伺いしてしまして一番強く印象に残りましたのは、お話をされる内容が去年と比べてかなり洗練されてきたと、内容が煮詰まった、去年よりももっと奥が深くなった、幅が広がった、そう感じております。これは事務局の方がいろいろと努力されて、その積み重ねの結果だと思っております。</p> <p>その上で私からちょっと質問させていただきたいですけども、質問の前に、昨年度の不登校・ひきこもりに関しまして最も関わりが強く影響力が大きいのは、やっぱり親だと私は思います。家族会とか、あるいは小・中学校で昔からあると思っておりますが、不登校親の会、あるいはおやじの会とか、そういったものを含めまして、その辺のところの活動状況が現在の状態でどうなっているのかもお聞きしたいと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>現在、今どういう形になっているかというところですか。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>そうです。不登校親の会とか、そういった。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>私の把握している範囲ですけど、各学校で親の会が今、開催されているかどうかは把握がございませんが、かつてそういう会があったということは認識しております。子ども相談課がさ</p>

<p>栗村委員</p>	<p>れている会には、不登校親の会の方がいつも来ていただいているので、そこには、直接ルポに来ていただいて助言いただいたり御要望いただいたり、そういうつながりはしておりますけれども、各学校は把握がございません、すみません。</p> <p>参考になるかどうか分かりませんが、PTAは各学校に、まだある学校もほとんどだと思いますけれども、年々そういうPTAに対しての関心は薄れてきていて、みんな、本部の役はやりたくないとかそういった方が増えてきています。本部の役をやるのが負担という原因はありますが、それ以外にも保護者同士の横のつながりも薄くなってきていると思うので、なかなか学校単位、保護者同士でいろいろと情報を共有する機会も少なくなっているとは思いますが。</p> <p>それと、PTAとは関係ないかもしれませんが、自分の子どもが通っている学校に関して、何というか、自分の子どもだけがよければいいという考えをお持ちの保護者がかなり増えてきているので、そうではなくて、いろいろな問題を解決するにはいろいろな人との関わりを持つことが大事と思っています。そうすればいろいろな人とつながるのでいろいろな情報も共有できますし、例えばですけれども、小学校であったら「心の教室、なかなか行けへんねん」というお母さんたちも、「そんなん大丈夫やで」と言って、「教頭先生に言ってあげるわ」という軽い感じでつなげてあげられると思います。個々で物事を考える方がたくさん増えているというのが肌感としてありまして、いろいろな人とつながるために、皆さんが自分の子どもがよければじゃなくて、自分の子どもが楽しく、過ごしやすく過ごすには周りの環境が大事だと考えていますので、みんなが人に関心を持っていただけたらと思っています。結構いろいろな情報を共有できる場が少なくなっているとは思いますが。まとまりがなくすみません。</p>
<p>飯田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>恐らく、学校単位で学校が行っているものだけでなく、保護者が自主的につながっているような、私もスクールカウンセラーをしている中で、保護者が行っているものが積み上がってきているような保護者会もたくさんあると思いますので、その部分は多分、教育委員会では把握しきれていない部分かと</p>

(事務局)	<p>思いますので、またそのあたりも発展していくといいなと願います。</p> <p>では、少し時間を過ぎてしまいました。たくさん御意見をいただいて、本当にありがとうございました。</p> <p>今後、事務局においては委員の皆様の御意見を十分に踏まえながら計画の基本的な考え方という、子ども・若者の自立に向けた支援体制の充実とか社会全体で支援していく環境づくりを進めていただくことにしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>私自身、スクールカウンセリングをライフワークとして研究もしておりますけれども、全校に校内適応指導教室があるということ自体、私は臨床のフィールドが別の都道府県ですけども、まず本当にすばらしいと思いますし、大学で学生にいろいろと授業をしている中でメタバースに登校できたらいいのという意見も実際ありましたけれど、なかなか実現は難しいだろうなと思っていたことが今回書かれていましたし、すごく先進的な取組をされていると、いつも出席するたびに思います。今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>ということで、このほかに事務局から何かございましたらお願いします。</p> <p>本日の資料等につきまして御不明な点等ございましたら、恐れ入りますが 10 月 10 日火曜日までにメールや電話などにより、事務局でございます子ども青少年政策課まで御連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、本日の会議録につきましては事務局で案を作成した後、皆様にメールまたは郵送でお送りさせていただきます。皆様に御確認していただいた後、その結果を会長と調整させていただき、決定したものをホームページで公表してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、本協議会委員の皆様はの任期でございますが、来月末の 10 月 31 日までとなっております。その中で野澤委員におかれましては、このたびの任期満了によりまして御退任されます。一言お言葉をいただけたらと思います。野澤委員、よろしくお願いいたします。</p>
-------	---

野澤委員	<p>時間が超過しているのにすみません、お時間をいただきます。</p> <p>長くお世話になりました。その間、「子ども・若者育成計画」に、いろいろと議論をされる事務局の御苦勞とか皆さんの議論の熱心なところとかをお勉強させていただきました。大変有意義で、私も少しは成長したのではないかと考えております。今後もこの会議が本当に有意義で子どもたちの成長に、そして家族の方たちに少しでも存在意義がある会議により発展されることを願っていますし、それから、枚方市そのものが子どもを育ていく環境がいいと評価を受けるような会議の力になっていったらいいのではないかと考えております。</p> <p>私自身は去年、1年になりますけど、1歳、3歳、5歳の3人の子どもを土曜日と日曜日に父親が勤務に出ている間、土曜日は4時半に保育所へ迎えに行き、7時に父親が帰ってくる間まで食事をさせてお風呂に入れて夜寝る準備をするということをやったり、日曜日は朝8時からパパが出られますので、夕方7時まで食事をしたりおやつをやったり、お勉強したり、遊んだり、お風呂に入れたり、いろいろと遊んで遊び相手をしてしています。それなりに悪い子であっても、とてもかわいくてかわいくて仕方ないですけど、私なりにそういった地域貢献を続けていきたいと考えておりますし、わかばの団体といたしましても10月22日にNPOフェスタで「子どものふれあい移動動物園」をやって、少しでも子どもたちの笑顔が増えたらいいかなと、赤字を覚悟で計画をしております。そういうことで、自分にできることをやっていきたいと思っておりますので、皆さんもどうぞ、この会議が本当に充実するように、発展するように、力を合わせて進んでいただけたらと願っております。いろいろとありがとうございました。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p> <p>野澤委員には長きにわたって青少年の健全育成に御尽力、御協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。枚方市青少年問題協議会委員は退任されますが、引き続き、これまで同様サポートいただければ幸いです。どうもありがとうございました。</p>
飯田会長	<p>では、お時間をちょっと超過してしまいまして申し訳ありません。</p>

	<p>せんけれども、これもちまして令和5年度第1回青少年問題協議会を終了したいと思います。</p> <p>皆様、本日はありがとうございました。</p>
--	---